

「私の旧広島市民球場跡地活用策」 古川 隆 23・12・19

改めて設置された「委員会」において審議される経過或いは結論は、必ずしも実行に移されるわけではない。また、財政上をはじめ制約する法律なども多い。しかし、今回の試みは、広島市では初めてのことである。

折角、広範囲の市民の意見を求める大掛かりな検討をするなら、新しい視点に立ち、計画の参画を当初から求め、出きるだけ多くの人が、客観的數字の裏づけを持ちながら、この種の計画を進めていくのが望ましい。

①：公共事業体白書の利用

最近の東洋大学根本祐二氏を中心に、埼玉市などで行われている方法を考える必要がある。これは、例えば「計画に直接関わる人」以外にも公共投資の費用と効果に(まず、過去の実績を評価する)関心を持ってもらうよう意図するものである。

この為、最初の何故投資が決められたかなども一応客観的に把握しておくのが望ましい。

- ・ 市長の公約、後援会の強い要望によるもの、更には、国家からの強い要請の影響(例えば小学校など、更には、画一的なものなども含む)。

②：過去に行われた公共投資(国家的プロジェクトを除く)の費用と効果の分析(例えば図書館の費用も貸し出し一冊あたり、1000円となっているなどの実話はある、しかも、この施策の通りとすれば、この図書館の場合人々のほとんどはつukらないほうがいい、とのことである。)

③段階的着手

単年度予算が中心の長い年月の中で、伝統を破り、段階的予算(の支出)が出来る方法の検討。

以上